

今週のメニュー

■トピックス

◇第22回 塩ビ工業・環境協会 通常総会・懇親会を開催

■随想

◇知ってそうで知らないシロアリの話 ①

株式会社テオリアハウスクリニック 平 一暁

■トピックス

◇第22回 塩ビ工業・環境協会 総会・懇親会を開催

5月21日に塩ビ工業・環境協会第22回通常総会・懇親会を開催いたしました。懇親会には官庁、報道関係、関係業界などの方々にご参加いただきました。横田会長の挨拶に続いて、来賓の経済産業省製造産業局上田審議官、芝浦工業大学 建築学部 秋元教授から祝辞をいただき、宮島副会長の発声で乾杯のあと、歓談に移り、盛況のうちに終了いたしました。以下に、横田会長の懇親会での挨拶を掲載いたします。

本日は、皆様ご多用のところ、ご来賓として経産省より上田審議官はじめ関係官庁様、関連企業様、関係団体様、報道関係様、そして日ごろからお世話になっております多数の方々にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。また、平素より塩ビ工業・環境協会の活動へのご理解とご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年5月に会長に就任して1年が経過しましたが、海外では米中貿易摩擦の影響による中国経済の成長減速、英国のEU離脱問題など、世界情勢は不透明感を増しました。一方国内におきましては、西日本豪雨や大阪・北海道での地震など自然災害に見舞われましたが、経済については緩やかな回復が続いてきました。今月新天皇が即位なされて「平成」から「令和」に改元され、新しい時代が始まりました。今後は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2025年の大阪万博等に向けたインフラ整備需要などを背景に、日本経済のさらなる成長、災害のないより良き時代が続きますことを願っております。



横田会長



上田審議官



秋元教授



宮島副会長

数値で見ますと、昨年度の塩ビ樹脂の状況は、年度計で生産165万トン（前年比98.4%）、国内出荷104万トン（前年比99.3%）、輸出59万トン（前年比99.5%）、出荷総計164万トン（前年比99.3%）となりました。生産及び出荷総計はいずれも2016年度から3年連続で160万トン台を維持しており、こうした堅調な塩ビ需要が今後も持続することを期待しております。

一方で、海洋プラスチック問題を契機にプラスチック全体に対するリサイクルへの関心が高まっておりますが、今後の動向を注視すると共に、リサイクルへの取組が進んでいる塩ビの優れた環境特性をアピールし、需要増につながる活動を推進していきたいと考えています。

一昨年まで開催してきたデザインアワードにつきましては、昨年は一旦休止し見直しを検討しました。今年度は装いも新たに「PVC Award」として開催することとしました。今回は上市した新製品及び上市する予定の製品を対象として、軟質から硬質まで幅広く公募し、新しい時代を切り拓く魅力のあるPVC製品の応募を期待しています。6月から10月まで募集し、1月に表彰式とグッドデザイン丸の内での展示を予定しています。

次に住宅・建築物の分野では、樹脂複合サッシを含む断熱窓は戸建て住宅において普及率80%を超えるに至りました。今後は、経産省・国交省・環境省によるZEB/ZEH（ゼブ/ゼッチ）、いわゆるネットエネルギーゼロ政策における様々な支援事業により、ビル系建築物への断熱窓の普及が加速していくものと考えております。VECとしても樹脂サッシを活用した断熱窓の更なる普及に向け、研究会を継続して樹脂窓の優位性の発信や製品に関係したJIS取得をサポートしていく所存です。本日その一環として、芝浦工業大学/秋元教授を委員長とした委員会のZEBパンフレットが完成いたしましたので、後ほど秋元委員長よりご披露させていただきます。

また、リサイクルの分野では札幌市周辺における使用済み樹脂窓の処理の実態を調査し、現時点では、ほぼ全ての使用済み樹脂窓が建物の外壁から取外されながら埋立て処分されていることや、もしリサイクルが可能になった場合、札幌市周辺7市だけで、再生塩ビとして年に300トン程度の回収が期待できることがわかりました。今後は、日本サッシ協会や樹脂サッシ工業会、また、解体や産廃処理などの各方面のステークホルダーの皆様と共に、品質・コスト両面から最適な回収再生経路の検討を行うなど、使用済み樹脂窓のリサイクルの実現に向けて取り組んで参ります。

更には、工場の環境と保安対策・化学物質管理についても常に最重要課題と認識し、海外の塩ビ関連団体とも協力してしっかりと取り組んで参ります。

塩ビ産業の益々の成長を祈念いたしますとともに、本日ご列席の各社様の益々のご発展と、ご参集の皆様のご健康、ご多幸を祈念致しまして、私のご挨拶とさせて戴きます。ご清聴有難うございました。

■ 随想

◇知ってそうで知らないシロアリの話 ①

株式会社テオリアハウスクリニック 平 一暁

わたくし、(株)テオリアハウスクリニックの平 一暁（たいらかずあき）と申します。現在、弊社で取締役法人営業部長を仰せつかっております。弊社は1974年に設立したシロアリの防除会社として、設立時は関東白蟻防除(株)という社名。「シロアリ被害のある住宅を駆除するのがシロアリ屋の仕事」という時代に、「新築時にシロアリの予防をする」という新風を住宅業界に巻き起こした、風雲児的な会社でした。2015年10月には断熱施工や住宅診断といった新規事業も始めるにあたりテオリアハウスクリニックに社名変更したという、現在約70名の会社です。

「何でシロアリ屋がVECのメールマガジンに寄稿するんだ！」というお叱りの声が聞こえてきそうですが、実は弊社はジェルコ（日本住宅リフォーム産業協会）に加盟しておりまして、ジェルコの性能向上セミナーが縁となり、VECさんと知り合う事となりました。昨年、なぜかこちらのメールマガジンで山登りの話を書かせてもらっていましたが、今回は本業のシロアリの話でご依頼頂きました。ではまず、基本中の基本から…

そもそも「シロアリ」とは

そりゃ、アリの一種だろ、という声が聞こえてきそうですが、実は違うのです。クロアリ（黒蟻）がハチ（蜂）に近い生き物なのに対し、シロアリ（白蟻）はゴキブリに近い生き物。今を遡ること3億年位前、共通の祖先から枝分かれして、一方がゴキブリに、もう一方がシロアリになったと言われております。正式には、クロアリがハチ目・スズメバチ上科・アリ科に属する昆虫なのに対し、シロアリはゴキブリ目・シロアリ科。そもそも明らかに生態が違います。きっと我々日本人の先祖が「アリみたいに小さな白っぽいヤツ」という見た目の印象で、「シロアリ」と名付けたのでしょう。そもそもシロアリは食べる物が雑食性のクロアリと異なり、枯死した木材を食します。木材の主成分であるセルロースを体内に入れると、シロアリの腸内に生息する微生物が酢酸にまで分解してくれて栄養源にしています。



ベタ基礎も貫通して侵入するシロアリ

「シロアリ」はコンクリートも貫通する

「そうは言っても、ウチは鉄骨のマンションだから大丈夫。」「ウチの家の床下はベタ基礎で一面コンクリートだから・・・」と、よく言われますが、はたして大丈夫なのでしょうか？答えはノーです。マンションでも低層階、特に1階には被害が出る可能性があります。鉄骨の住宅であろうと、RC造やマンション

でも、建物に木材が使われていたら、その木を食べようと侵入して来るのが「シロアリ」です。さすがにコンクリートは突破できないだろうと思われがちですが、強力な顎でコンクリートの粒子を外してしまうため、0.6mmのクラックがあれば貫通してしまうと言われています。またコンクリート中の水分も年数が経てば揮発して収縮してしまうため、コンクリートの打継部分や配管などとの接触点に隙間が生じ、侵入が可能となってしまいます。また、シロアリは鉄骨そのものと無機質のガラス以外は全て貫通できるとされており、コンクリート以外でも断熱材、ビニールシート、鋼管なども簡単に突破してしまいます。一匹、一匹の力は弱くても、数千、数万と数の力で攻めてきますから、「ウチは大丈夫だろう。」と安易に構えていると痛い目に遭ってしまうのが「シロアリ」です。

様々なシロアリの食害



鉄骨住宅・床下の被害



土間コンクリートでの蟻道



軽量鉄骨・被覆配管の被害

「シロアリ」は害虫？益虫？？

木材が大好物のシロアリは、それが倒木なのか、廃材なのか、住宅の部材や柱なのかは知る由もなく、とにかく木があれば集まって来て、それを食します。たまたま住宅に使われている木材でも悪気もなく食してしまうため害虫と呼ばれていますが、森林においては益虫と崇められています。森林での枯木や倒木、折れた枝などが腐朽して土に還元し、循環していくには数十年単位の時間が必要になります。しかしシロアリが地中にいて、倒木や枯木を食してくれるお陰で短時間で土に還る事ができています。一説には、シロアリが絶滅して地球上からいなくなると、森林が枯木で埋め尽くされ、地球自体が滅んでしまうとも言われています。シロアリの防除とは、せめて住宅に入って来たシロアリについては駆除しましょう、更に入って来ないように予防しましょう、という意味であって、決してそこらじゅうにいるシロアリをのべつ幕無しに殺してしまえ！絶滅させろ！という訳ではないのです。

「シロアリ」は人目につかないが、どこにでもいる

「シロアリなんて、見たことも聞いたこともないよ！」訪問したお宅で、よくこんな事を言われます。確かに普通に生活している上では、まずお目にかかれませんが、仕方がないのです。シロアリは薄い皮一枚だけで身体が覆われているので、直射日光に照らされたり、空気の対流に身を晒すと、体内の水分が蒸発して干からびて死んでしまうのです。だから明るい所に自分からノコノコ出てきたりはせずに、基本的に薄暗い床下から住宅に侵入して来ます。ヤマトシロアリという種類のシロアリは北海道の一部を除いて、日本全国、土の中にはどこにでも生息しています。日本という国はシロアリの巣窟のような所で、日本人がこの

世に現れるずっと前からほぼ全土をシロアリに占領されていました。そんな所に日本人は木を使った住宅を建てていたので、我々の先祖は昔からシロアリの事を考え尽くした上で、知恵を絞って住宅を建ててきたのです。現在では、例えば木造住宅の場合、家を建てる際には構造材などに対して防蟻・防腐措置を施すことが建築基準法施工令第49条（外壁内部等の防腐措置等）で義務づけられています。また、鉄骨住宅などを手掛ける大手ハウスメーカーも、その多くが新築時に防蟻施工を自ら義務づけるようになりました。



今回は (2)シロアリの風評被害や蟻害と地名の関連性について

⇒ [バックナンバー](#)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。